

危機管理会議

日 時：平成 22 年 7 月 30 日（金）18:00 ～

場 所：県庁 3 階特別会議室

協議事項

- 県内での「セアカゴケグモ」の確認について

鳴門市におけるセアカゴケグモの確認について

1 概要

平成22年7月30日午前11:00頃、県博物館より「セアカゴケグモが鳴門市の大手海岸で生息しているらしい」との連絡が生活衛生課にあった。

徳島保健所等の職員が、同日午後に大手海岸を調査した結果、それらしきクモを発見・採取し、県博物館にて同定してもらった結果、セアカゴケグモであることが判明した。

2 発見場所

鳴門市大手海岸付近

3 保健福祉部の対応

(1) 県民からの相談対応

発見時の対応及び駆除方法等についての相談に応じる。

徳島県保健福祉部生活衛生課 電話：088-621-2265

7月31日(土)・8月1日(日) 8:30～17:15

(2) 県民への注意喚起

セアカゴケグモの特徴、生息場所、発見時の留意点(殺虫方法等)等について、徳島県ホームページに掲載

〈セアカゴケグモの留意点〉

- 1 攻撃的なクモではないが、咬まれた場合、局所の疼痛、熱感程度の症状があり、小児、高齢者等の人咬まれると、抗毒素血清が必要な場合がまれにある。
- 2 万が一咬まれた場合、咬まれた場所を水で洗って清潔にし、医療機関に相談する。
- 3 毒を持っているが、咬まれても、死亡するということはないのでパニックにならないことが必要。
- 4 駆除方法
市販の殺虫剤噴霧、踏みつぶす、バーナーで焼却することにより、容易に退治することができる。

セアカゴケグモの特徴

セアカゴケグモは、熱帯から亜熱帯地方に分布し、日本には生息しないとされてきましたが、平成7年以降、日本各地で生息が確認されています。

当初は、コンテナ等に付着して国内に侵入した可能性が高く、その後貨物やコンテナ、建築資材、自動車等に営巣したものが人為によって運ばれた結果、生息域が拡大したと考えられています。

セアカゴケグモの特徴は、背中側が赤く目立ち、交尾後メスがオスを食い殺すという伝説から「セアカゴケグモ」と呼ばれています。

セアカゴケグモは、元来は熱帯～亜熱帯に分布し、オーストラリア、ニュージーランド、ニューギニア、インドなどでその存在が報告されています。

毒を有するのは、メスのみでオスは無害です。

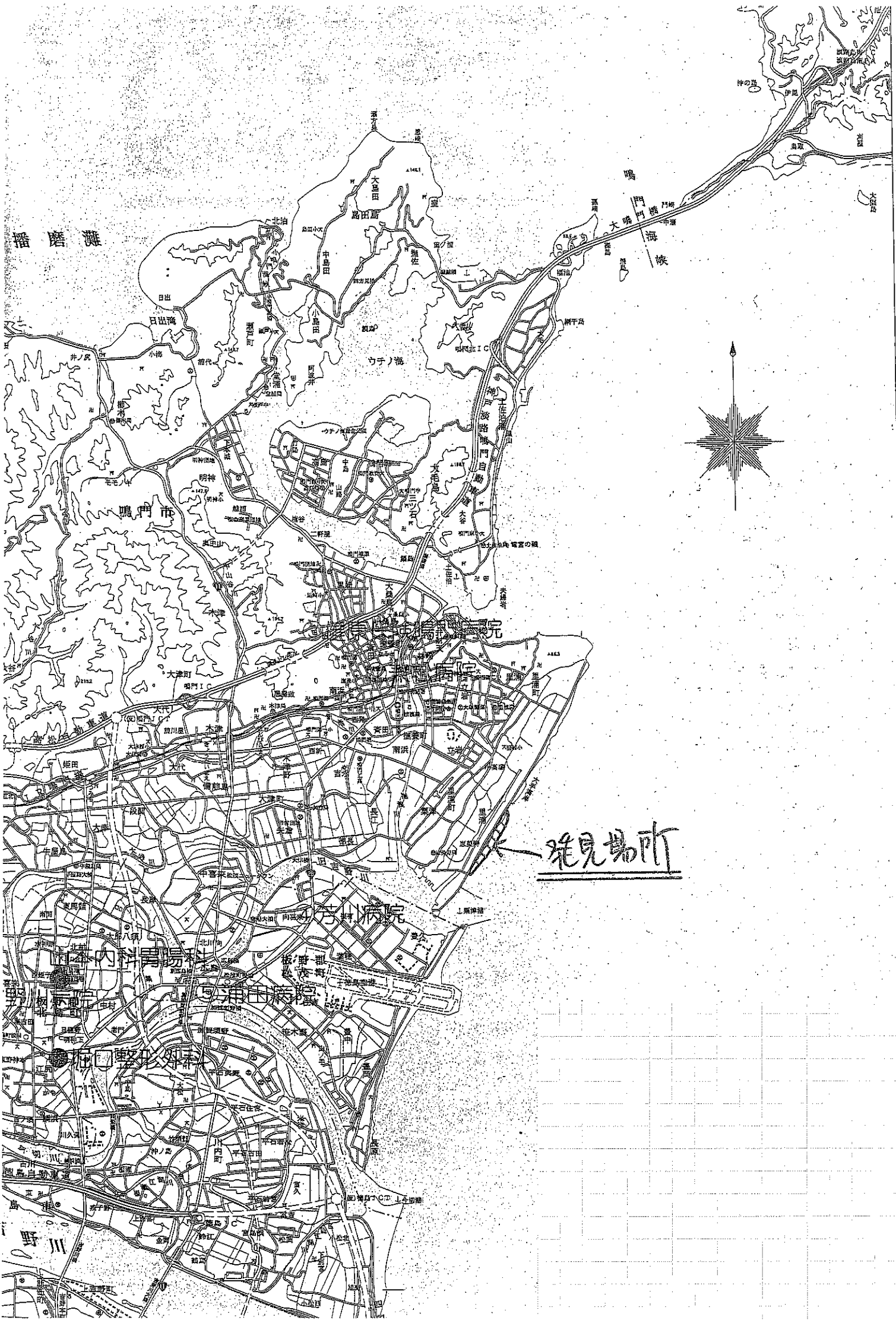
メスの体長は、約 1cm で、全身ほとんどが光沢のある黒色で、細長い脚と腹部の背中側の中央に赤～オレンジ色（中には黄色）の帯が目立ちます。腹部の腹面には砂時計型の斑紋を有します。これに対して、オスの体長は、メスの 1/3 以下の約 3mm で、腹部は細く、その背面は灰白色で中央に縁取りのある白い斑紋があり、その両側に黒紋が2列に並んでいます。

繁殖時期は真夏で、この時期に活動が活発になり、不用意に手で触れない等注意が必要です。棲息場所は、屋外の建物の隅、道路脇の側溝の内部や蓋の隙間、フェンスの基部やベンチの隙間、庭石・墓石の間や窪み、コンクリートの割れ目など外敵から攻撃しにくい場所にいます。

セアカゴケグモ自身に攻撃性はなく、驚かされると死んだふりをするなどおとなしい性質なので、素手で捕まえようとしない限り、噛まれることはほとんどありません。

もし噛まれた場合は、噛まれた場所の疼痛、熱感、搔痒感、紅斑、硬結をきたし、区域リンパ節が腫脹します。

通常は、数時間から数日で症状は軽減しますが、時に脱力、頭痛、筋肉痛、不眠などの全身症状が数週間継続することがあります。重症の場合は、進行性の筋肉麻痺が生じることがあります。



播磨灘

鳴門市

宇治市

観見場所

宇治病院

野川



